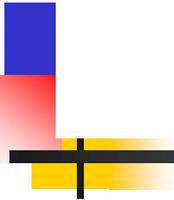


2009年10月14日  
2013年 6月10日 rev



# 人材の重要性を認識する

---

群馬大学大学院 工学研究科

電気電子工学専攻

小林春夫



# 人材は国、組織の礎

---

- 「企業は人なり、組織は人なり。」
- 「大きな仕事をするには人、モノ、カネが必要。  
人があれば モノ、カネはあとからついてくる。」
- **武田信玄** 「人は城 人は石垣 人は堀」  
終生領内に城を築かず。
- 古代中国 **文王**は**太公望**を得て  
周王朝を興す。



# 人材を求めて

---

- 豊臣秀吉 → 「人たらし」と評される。
- 石田三成は島左近を破格の待遇で迎える。  
「治部少(石田三成)に過ぎたるものが二つあり。  
島の左近と佐和山の城。」
- 秦の始皇帝  
「この著者に会いたい」→ 戦争まで起こす。  
韓非子の理論は秦の全国統一の基盤となる。
- 三国志 劉備玄德は三顧の礼で  
諸葛孔明を軍師として迎える。

近代日本経済の父

## 渋沢栄一氏の言葉

「およそ事業の発展成功の基本は、  
資本にあらずして人にあり。

ゆえに事を興すはまずその人を得るにある。」

「人を択び、人を採用するに三つの要件がある。

第一に 適材を適所に置くこと。

第二に ある特長を任用すること。

第三に その人物の全体を観察して、

その完全なるや否やを知り、その人を重用する。」



# 人材育成

---

弱みを克服しようとするより  
強みを伸ばすことを考える。

ヒノキだけの建物より  
さまざまな材木でできた建物のほうが  
丈夫である。

徳望のある人のもとへは人が自然に集まる

## 指導者としての器量

中国 前漢時代の将軍李広。清廉な人格。泉を発見すれば部下に先に飲ませ、食事も下士官と共にし、全員が食事を始めるまで自分の分には手をつけなかった。恩賞も部下と分かち合い、自身の蓄えはほとんど無かったため、部下は彼のために死を恐れず戦った。



「桃李もの言わざれど下自ずから蹊を成す」と史記にて評される。

# 「史記」は人物伝の宝庫

将軍李陵は武帝の命のもと匈奴征伐に遠征。  
六倍の相手に激戦を繰り広げたが降伏。  
皇帝武帝は激怒。司馬遷は李陵を弁護したが  
怒りをまねき、宮刑に処せられる。



司馬遷は屈辱をはね返して「史記」を執筆。  
将軍李陵は将軍李広の孫。  
中島敦の小説「李陵」はこの史実を題材